



議会だより

12月定例会号

平成31年 1月25日発行

No.144

こうみ



12月議会 ー第4回定例会ー

こんなことが決まりました

議案質疑

一般質問

視察研修レポート

委員会からの要望・編集後記

2

4

5

14

16

保育園クリスマス会

年長園児によるKOUMIマンショー

きかせて みんなの夢

みなさんの未来に寄り添うために

こんなことが決まりました

平成30年度一般会計で台風24号による災害復旧工事、
小学校エアコン整備事業等追加補正

30年度一般会計補正予算（第3号）

全員賛成で可決

1億9,454万円を追加補正 総額40億9,194万円

【歳入の主なもの】

●地方交付税	3,781万円
●災害復旧費国庫負担金	1,267万円
●エアコン設置に関わる国庫補助金	506万円
●災害復旧費県補助金	6,841万円
●災害復旧・学校教育施設整備事業債等	2,799万円

【歳出の主なもの】

●町民生活応援事業	450万円
●出産祝金	210万円
●除雪融雪関係	1,476万円
●Jアラート機器更新	216万円
●小海小学校エアコン設置関係費	3,769万円
●公共土木施設災害復旧費	2,580万円
●農林施設災害復旧費	8,620万円

30年度 特別会計補正予算

全員賛成で可決

国民健康保険事業特別会計	153万円減額補正	総額 6億1,569万円
介護保険事業特別会計	774万円追加補正	総額 6億8,616万円
後期高齢者医療特別会計	146万円減額補正	総額 7,317万円
水道事業会計	5万円追加補正	総額 9,015万円

平成30年小海町議会第4回定例会が12月4日から19日まで16日間の会期で開催されました。

人事案1件、条例改正案等8件、補正予算案5件、請願1件、陳情2件、発議2件の合計19件で審議が行われ、陳情1件を除き、すべての案件が同意・可決・採択されました。

一般質問では、9名の議員により行われ、町の考えをいただきました。

条例改正等

◆南佐久環境衛生組合規約の変更

組合の共同処理する事務の中の、ごみ処理施設の設置及び経営に関する事務を廃止すると共に議員定数を変更するものです。

全員賛成で可決

◆南佐久環境衛生組合の財産処分

南佐久環境衛生組合規約の変更に伴い、新ごみ処理施設財政調整基金を拠出した町村に返還譲渡するものです。

全員賛成で可決

◆議会の議員の報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例

特別職報酬等審議会の答申に伴い、議会議員の報酬を一律1,000円引き上げるものと、期末手当の支給率を0.05月分引き上げるものです。

全員賛成で可決

◆特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例

人事院勧告及び特別職報酬等審議会の答申に伴い、非常勤の特別職のうち5つの職の報酬について改定を行うものです。

全員賛成で可決

◆特別職の職員で常勤の者の給与に関する条例の一部を改正する条例

人事院勧告及び特別職報酬等審議会の答申に伴い、町長、副町長、教育

12月議会 第4回定例会で

長の期末手当の支給率を0・05月分引き上げるものです。
全員賛成で可決

◆一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

人事院勧告に伴い、一般職の棒給表及び勤勉手当等を改正し、棒給表は平成30年4月に遡って平均0・2%引き上げ、勤勉手当を0・05月分、宿日直手当を200円引き上げるものです。
全員賛成で可決

◆小海町交通政策審議会条例の制定

町営路線バスのみでなく、小海町の交通政策を総合的に審議するため審議会を新たに設置するものです。
全員賛成で可決

◆小海町営路線バス設置条例の一部を改正する条例

車両台数と停留所の名称等について改正するものです。
全員賛成で可決

人事

◆小海町教育委員会委員の任命同意

篠原秀郷氏（本間下）が全員賛成で同意されました。（前任者小山忠男氏の辞任によるものです。）



請願

●米軍基地負担に関する請願

請願者 佐久地区平和委員会

代表 望月 清泰

佐久革新懇

代表世話人 依田 輝孝

賛成多数で可決し、関係機関に意見書を提出しました。

陳情

●最低制限価格の設定に関する陳情書

陳情者

（一社）長野県建築士事務所協会

会長 小河 節郎

佐久支部長 山口 正久

継続審査となりました。

●安全・安心の医療・介護の実現と夜勤交替労働の改善を求める陳情

陳情者

長野県医療労働組合連合会

執行委員長 小林 吟子

全員賛成で可決し、関係機関に意見書を提出しました。

議案の訂正

◆議案第47号「平成30年度小海町一般会計

補正予算（第3号）」の訂正について

招集日に提出された議案の一部を訂正するものです。
全員賛成で可決

第4回定例会の審議中賛成多数で可決された議案

（○は賛成 ×は反対）

(議員氏名) (議案名等)	古谷恒晴	渡辺均	井出幸実	井上一郎	小池捨吉	篠原伸男	篠原義從	的埜美香子	井出薫	新津孝徳	鷹野弥洲年	有坂辰六
請願第1号「米軍基地負担に関する請願」	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	議長職
発議第5号「米軍基地負担に関する意見書の提出について」	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	

議案質疑

【南佐久環境衛生組合の財産処分 関係】

Q 基金処分の按分率が小海町は19・1％
ということであるが、実際に金額がい
くらで、それは小海町に何時返還され、補
正予算にどのように反映されてくるのか。

A 29年度末の9,652万円に小海町の
按分率19・19％をかけますと1,85
2万円余りとなり、納入の時期は組合の議
会の議決をいただいてからとなります。補
正予算に反映されるのは3月補正になろう
かと思えます。

【報酬及び費用弁償等の条例改正 関係】

Q 小海町は人事院勧告に則って1,00
0円を超えない場合には上げないとい
うの流れがあったが、今回の人事院勧告に
則って実際にいくらの値上げになったのか。

A 民間との給与の格差は0・16％という
ことで調査をし、それに基づいて一般
職につきましては平均0・2％の俸給表を
改訂することになっております。単
年で計算すれば1,000円を超えないわ
けですが、この間5年間職員の給与につ
きましては上がってきているというのを勘
案致しましてトータルで今回見直しを行い
議員報酬を、1,000円上げさせていた
だくものがございます。

【平成30年度一般会計補正予算 (第3号) 関係】

Q ふるさと納税返礼品を小海町は新聞報
道で30％以下に改定したと理解してい
たが、この補正予算書によると改正されて
いないのでは。

A 新聞報道で指摘された以降は是正をし
ておりますが、再度精査したいと思
います。

Q 今回の台風の影響によりアルミニウム
が流れ込み松原湖の水質検査を行った
ということだが、小海町を流れる河川、湖
水は小海町のかげがえのない財産である。
何か対策等は取ったのか。

A 水質検査は実施しておりますが、毎年
定期の水質検査の場合はpHのみで、ア
ルミニウムの検査をしたことはありません。
今回松原湖の水の色が変化したということ
で、pHとアルミニウムの検査を至急行ない
ました。その結果がpHは全く問題なく、ア
ルミニウムは検出されたものの飲料水基準
をほぼクリアしております。もう一回アル
ミニウムを含めて検査をし、その結果を見
て対策を講じたいと考えております。

Q 最近の傾向を見ると何処の町村でもエ
アコンの整備について補正予算化し、
また全国的に小中学校にエアコンを導入す
るといった傾向であるが、機器の奪い合い

になって予算化したけれど実行できないと
いう事態にならないか。

A 大手のメーカーにはこの情報は流れて
おり、当然業界とすれば量産体制に入
っていると考えております。この12月の補
正予算でお願いしまして1月に実施設計を
組み2月には発注する予定です。また機器
設置にあたって完全停電にしなければなら
ない期間が1週間ほど出てくるということ
で、春休みに工事を行う予定です。今後は
来年度の31年度の予算で保健室、ランチル
ーム、給食調理室、給食職員休憩室、職員
室、校長室、事務室といったところを実施
したいと考えております。

Q 保育園、児童館のエアコン整備に関し
てはどのような考えか。

A 31年度の当初予算でお認めいただけ
れば夏には間に合うように工事をしてい
きたいと思っ
ております。
保育園はご存
じのように、
ほぼ土曜日も
開園しており
ますので、5
月の連休中に
実施できれば
と考えており
ます。



問 初めての予算編成にあたり 考えている事業は

答 町長 公約実現に向け新規事業を計画しています



井出 幸実 議員

平成31年度

予算編成について

問 町長に就任して初めての予算編成となる平成31年度予算の基本方針・構想は。

町長 初めて一から取組む予算なので、公約実現に向け盛り込むつもりです。具体的事業の例を挙げますと、買い物弱者支援、少子化対策として出産祝金の増額、大学進学時給付金の新設、定住人口増と介護人材の確保を目的とした町営住宅の整備等々が挙げられます。

農業・商工業振興

について

問 町では土作り推進補助として支援しているが、補助金はいくらなのか。補助対象は小海コンポースの堆肥だけなのか。

産業建設課長 トン当たり500円補助しています。補助対象は小海コンポースの堆肥のみです。

問 耕地の地力アップのため土作り推進事業を充実する考えは。

町長 土作りは大変重要な事だと思えます。これは前向きに考えないといけないと思いますが、具体的な数字等につきましては検討します。

問 高原野菜栽培農家では根こぶ病・黄か病対策に苦慮している。町として根本的な対策を専門機関等と一緒に研究していくシステム作りを考えてほしい。

町長 調査研究については必要な事と考えます。それぞれの優秀な機関がありますので、そういった方法があるか考え進めてまいります。

問 平成31年度予算においてプレミアム商品券を10%から20%にしていたきたい。過疎債を充当しているの一般財源には負担があまりかからないと思うが。

町長 現在の結果を検証した中では、適当であるという意見が大半を占めていますので、一気に20%とするのはなかなか

か厳しいですが、商工会・企業の皆さんと協議をし検討してまいります。

町道川久保八那池線の 拡幅工事について

問 道路が狭く道路上では行き違いは不可能であり小倉原の五差路から梨ノ木原の畑までの間の拡幅をお願いしたいが。

町長 来年度は急カーブの除去と待避所の調査を大至急行い進めて行きたいと思えます。全線の拡幅というのは大変厳しいと考えております。



農家が苦慮している根こぶ病

問 町の分譲地である大田団地では 地元業者の活用を

答 町長 住宅リフォーム事業もあるので積極的に活用をしていただきたい



井上 一郎議員

**空家を活用した移住者
受入れ促進について**

問 Iターン促進等のため空家を新規就農者の研修宿泊施設として利用することを提案したが、進捗状況は。

町長 31年度の当初予算において、空家対策総合支援事業という補助事業に盛り込んでいきます。

総務課長 3年間で2棟計画しており、候補2棟につきましては所有者と交渉し内諾を得ています。来年度はこのう

ち1棟につき取組みます。

**地元商工業の振興につ
いて**

問 町で分譲した大田団地では、現在10区画で住宅が完成したが、地元の建築業者が請負った工事はほとんどなく地元の建築業者が成果を得られる構造ではない。町外の業者大手プレハブメーカーが請負町外から資材等が調達されるのが実態である。もちろん家を建てる方がどこの誰に注文しようが自由であるが、町の分譲であれば可能な限り町の

業者等を活用してもらうような配慮が必要ではなかったか。

町長 大手プレハブメーカー等が参入し、地元の中堅または小規模の工務店にとつては非常に厳しい状況だと思いますが、新築数が減る中で、大手プレハブメーカー等は積極的な営業活動をしています。町は新築やリフォームに対して補助金を出しております。特にリフォーム事業は将来的にも減少幅が少なく、地元工務店に適した分野でもあります。町の施策を施主さんに紹介する等の営業活動をし、積極的に活用していただきたいと思えます。

**大型台風による風倒木
対策について**

問 台風24号で風倒木により電線が破損し、停電事故が県内各地で発生した。これからの寒い時期に一晚でも電気が止まると独り暮らしの老人宅等では安否確認はもとより寒さを凌ぐことさえ困難になる。

送電線の維持管理の直接的な責任は中部電力が担っていると思うが、危険性のある樹木の伐採等についての行政の考えは。

産業建設課長 事前に倒木の可能性のある立木の伐採を済ませておけば被害を防ぐことができますが、町内路線の全てにおいてすることは不可能です。傾きつつある立木や枝について、順次対応することが現実的な方法だと考えております。



建築が進む本間大田団地

問 中部横断道建設促進への町の対応は

答 町長 積極的に取り組んでいく

問 中部横断道全線開通が、小海町や地域住民の悲願である。1キロ幅のルート帯とICの概略の位置が示された計画案が発表されたが、国土交通省が国の計画書として出したものであり、ICは政策ICであることは明確である。政策ICであるとの共通認識と前提の上で小海町として今やるべきことは、具体的な国の発表を待つのではなく、町が主体的に通過箇所やICの整備場所の提案や、小諸・長坂間の中間である小海町の地籍に休憩所やトイレなどのパークキングエリアの整備を要望

すべきではないか。小規模であっても農産物などの販売施設や雇用の場にもなる。また今後町として、関連施設の整備のための資金積立・関係する専門的な職員の確保・総合的なプロデュースのできる人材の養成も必要になる。このような町の積極的な姿勢を示すことが今なすべきことであり早期の整備に繋がると思うが、その対応は。

町長 ご指摘の部分は大変重要であり、積極的に取り組んでいきます。基金は必ず必要になるし、関係する職員の育



鷹野 弥洲年議員

成に努めていく所存です。

台風豪雨災害対応は

問 今夏秋の豪雨や台風で八ヶ岳東側斜面の崩落により、上人沢や八岳の滝周辺で土石流災害があり、灌漑用水の施設に大きな被害が生じたが、小海原の畑灌や松原・八那池・鎔掛原の野菜団地における来年の耕作に影響はないか。

町長 大変重要なことであり、今後調査研究は必ず必要だと思っております。たいと思いません。

問 大月川上流の災害により松原湖が乳白色に混濁した。原因箇所の特定を行い経過観察と、火山の研究機関に依頼をし、将来にわたって監視を継続して行くべきではないか。

産業建設課長 来年の耕作に支障がないように万全を尽くします。

問 北八ヶ岳の登山道が至る所で崩落し通行不能となり、早期の復旧が求められるが。

産業建設課長 山小屋関係者などの尽力により復旧し、迂回路の確保に努めています。



台風24号による八岳の滝災害現場

問 町の威信をかけ小海駅改造で活性化を

答 町長 地域住民、関係組織と協議し前向きに検討します



小池 捨吉 議員

JR小海駅業務の受託について

問 東の玄関口、小海駅の将来の活性化像についてお伺い致します。10月より小海駅がJRの子会社、長鉄開発㈱に委託されました。長鉄開発の社員は8時から16時の間で自動販売機でのキップの買い方を指導するのみです。近隣の町村に倣い、駅業務を町で受託できないか。

副町長 町では9月頃JRより説明を受け、自動販売機でキップは買えます。分らない

ければ窓口職員が居るので聞いてもらえば対応できますとのことでした。特に要望もせず受けました。只今提案がありました。信濃川上駅は村で受託し早朝から住民サービスの向上に寄与しているのとですが、町として受託してやる方が良いかどうかを含め実態調査をし、検討していきたい。

問 ワンマンで整理券だけだで行った先で時間もかかり、乗り継ぎ時の接続も上手にいかないこともあるので、近隣の信濃川上駅、八千穂駅等の

状況を確認していただき受託を検討していただきたい。

町長 受託につきましては信濃川上が実証済みであるというのと、八千穂、羽黒下駅が臨時職員を置いている実態であり、大至急調査して必要であると判断がつけば考えていきたいと思えます。

小海駅舎の

改造について

問 小海駅についてはJRの合理化とJAがATMを残して撤退とのことですが、JR、JA、佐久病院と協議をしていただき、駅待合室も含め全体的に改造を行ない、①観光案内所の設置、②直売所の支店の設置、③昨年度計画検討となったトイレの設置、④商工会事務所の移転などを提案します。各機関が一体となり、駅前の活性化の環境作りが出来る

いか。

副町長 建物の所有者は長野県厚生農業協同組合連合会が所有しており、JAが有料で借りている状況です。駅前については関係する方が沢山いますので、将来、町が音頭をとり、皆さんの意見を聞きながら役場の組織見直しも考え、担当者を配置し、本格的な駅周辺整備計画を考える時期かと思っております。



小海駅待合スペース

問 国道141の迂回路対策を真剣に

答 町長 積極的に、強く訴えていきたいと思っています



井出 薫 議員

国道141の迂回路と 中部横断道について

問 国道141の迂回路について、どう考えているか。

町長 県道川上佐久線を迂回路として使う以外に方法はないと考えていますが、大型車両等々の通行が非常に厳しい状況にあると思います。

問 中部横断道、未来会議では災害時の代替路の確保、国道141の迂回路的な役割も期待されている。

これまで佐久南インター、

八千穂高原インターまでは整備計画になってから、佐久南インターまで約15年、八千穂高原インターまで約20年の期間がかかっている。(まだ整備計画にもならない今)中部横断道以外の迂回路対策をしなければならぬと思います。が、県道川上佐久線あるいは小倉原西側の迂回路としての問題の場所と現実的な取り組みは。

産業建設課長 東馬流の住宅密集地で、現在バイパス案も含めルート検討し、早急な対応を県にお願いしているとこ

ろです。今年度は東電取水口付近を一部改良していただき、僅かずつですが対策を講じているところです。

問 まず川上佐久線ですが、現在佐久穂の方の計画が進んでおり佐久穂が終わらなければ東馬流は来ないというような取り組みに、県としてイメージしていると感じられる。難題である東馬流対策をもう少し取り組む必要があると思います。それから299号小倉原あるいは南牧との関連は具体的にどうしようという答弁がない。町長の考えは。

町長 あくまでも逃げているわけではございません。実際のことを考えますと、取り返しのつかないことが予想されますのでその辺を強く訴えていきたいと思っています。

問 野良猫対策について、その後の対応とこれからの考えは。

町民課長 猫屋敷や野良猫の

被害の状況を、各区の区長さんをお願いをして確認するようになりたいと考えています。この間、3匹子猫を保護しましたので、防災無線で里親を募集したところ町内で里親を見つけたことができました。去勢避妊手術への補助は具体的に検討しておりませんが、愛護団体の活躍など調査し、検討に入った方が良いかなと考えております。



道路拡幅工事により2車線になった県道川上佐久線

問 町内で農産物の自給率を高めるための対策は

答 町長 特徴ある学校給食も地産地消の原点なので進めていきたい



的埜 美香子 議員

子ども議会について

問 5・6年生による子ども議会の感想と子ども達からの要望に応えられるものは、又、今後の取組みは。

町長 町が抱えている課題に直球で放り込んでくれ、課題が共有されているという認識を持ちました。具体的な施策では、スケートリンクの学生無料化の提案に対し、小学生以下は町の負担という形を取りたいと思います。プティリツア作りの体験が出来る場所については直売所の会の皆

様と協議していききたい。現在町でも検討しているデマンドバスや防犯灯の設置。横断歩道の信号設置。路側線の塗り直し等。又、観光振興や特産品開発等町を活性化する提案、高齢者の皆様のための提案等は是非、議員の皆様と一緒に考えていただければと思います。今後は中学生や高校生などいろいろな世代の意見を聞くという意味でも可能であればやっていききたいと思っております。

農業政策について

問 私は、一次産業である農

林業の衰退が農山村の過疎化の原因だと思うが、町長はどのように捉えているか。

町長 高齢化、農地の荒廃など、農業の衰退が過疎化の原因の一つでもあると考えます。

問 農業の担い手作りのための町の独自策として、31年度事業として考えている事は。

町長 空家住宅の改修に伴う施策で新規就農者の皆さんにも利用していただけたらと思っております。又、そば、鞍掛豆、陸わさび以外の品目の研究も必要だと思えます。

問 上天草市では、実際に移住、定住した方がアドバイザーとして市の職員になり、移住された方達の相談窓口として大活躍されている。小海町でも取り入れてみてはどうか。

町長 移住していただく皆さんに不安の無いよう出来るのはそういった方の活躍が一番だと思えますので、支援等々

は行政の方ですということになっていきますのでそれらを活用していただき、皆さんのネットワークを使って一人でも多く小海へ移住、就農出来る方を募っていききたいと思っております。

問 自給率を高めるための対策は。

町長 地産地消の拡大で小規模農業も面的に伸ばすような政策を見出したいと思えます。



子ども議会で議長を務めた新津蒼太君

問 小水力発電事業を地場産業化し、集落の再生を目指す

答 町長 投資額が大きいので、より具体的な提案を求めます



渡辺 均議員

問 八那池の中電発電所の排水で200〜250kwの電力が調達できる。発電事業は売価が決まっております。建設コストと運営経費が吸収できれば事業化の可能性は高い。どう考えるか。

町長 町が5〜6億の金を掛けて営利行為を行うことは、農業を含めた他業種に対し、平等性に欠けると思っています。机上の話ではハードルが高いと思います。

問 県企業局は16力所の発電事業で収益を出している。御代田町や長野市、飯島町でも

事業に取り組もうとしている。県と連携で事業化を検討したらどうか。

町長 検討はしております。その先に進む提案をいただければと思います。計画のしっかりとした数字、実績を示してくれないければ返事ができません。

問 商業振興で、消費者と事業者が支え合う関係をどう作り出すか、今のままでは商店街では支えきれない。

町長 自立の志向が無いと助

けようがない。自立を掘り起こし、時間をかけ、中身を濃くし、相互の発展に繋がる施策にしたいと思えます。

問 自助努力が先、という話では遅い。町内消費を促すサービスの充実を図り、町内での消費生活を町が守るために商工会を指定管理者にし、町の補助で共同でサービスを提供する仕組みを作り出す必要がある。

町長 商工会を指定管理者にし、多様なサービスをを行うことは、規約上難しいと考えます。

問 医療、介護、福祉の未来は、「支払いはより高く、受け取りはより少なく、自己責任はより重く、理想からは程遠く」と見通される。どのように対処するのか

町民課長 町独自の付加価値の有る産業や製品を見出し、既存集落の生活機能の維持を図り、高齢者の力を引き出し、

時代に合った町づくりを進めたいと思っております。

問 ボランティアの力が重要で、制度として生活の中に組み込んでいく必要がある。

町長 ボランティアは不可欠な存在で真摯に受け止めたいと思っております。

渡辺議員 連絡協議会がその役割を担うが、その為には、たまり場が必要で、縁側のような形で自主運営する拠点整備をお願いしたい。



アルルに移転した新津テレビ

問 小海町から白駒の池への歩道を整備すべきではないか

答 町長 現況認識が不十分なので調査研究して期待に応えたい



篠原 伸男 議員

問 町づくりは一面的には、経済活動を活発にすることだと考えます。その要として私は地域資源の活用とその担い手について述べます。

私が考える地域資源は小海の自然・文化財そして町を支える人です。町長は地域資源の活用についてどのようなお考えでしょうか。

町長 別荘地・リゾート開発、八峰の湯等松原湖高原は貴重な観光資源で、今後もこの資源に磨きをかけていきます。

問 松原湖高原は有力な地域

資源です。残念な事は、昨年度松原湖線沿いを整備したのに、今年度は、それが無に帰したと思うことです。

町長 再三、その件についてご指摘を受けています。

来年度は神社林を伐採等整備し、景観の向上を期待するところです。

問 レストハウスふると、松原湖、諏方神社、八峰の湯、キャンプ場等とリエックスを含んだこのエリアは経済活動の基点として、外貨を稼ぐ一大レジャースポットとして再

開発を図るべきと考えますが、町長のお考えは。

町長 このエリアは外貨を稼ぐための重要な地域であり、ポイントでもありますので、来年度予算に向けて、真摯に取り組んで行きたいです。

問 白駒の池は今や全国的観光スポットです。小海地籍でもあるが、白駒の池と小海が結びつかない。それは、小海から白駒の池へのアプローチが悪いからではないか。サラサドウダンツツジ群生地や稲子の湯からの道があるが、この道を登り易い道にし、小海から白駒の池への入口もPRすべきです。先程述べた一大レジャースポットがより高まるのではないのでしょうか。

町長 苔の森等を含めた中でご指摘のようになる

と思いますが、現況を良く把握してないので調査研究を積み、期待に応えるようにして行きます。

篠原議員 町長は職員一人一人と面談して、適材適所で職員を活用すると思います。職員は視野を広め町づくりに励むべきで、視察研修は積極的に行い、その研修内容を広報で町民に報告し、職員の町づくりの意欲を示すべきです。



白駒の池に通じるサラサドウダンツツジ群生地

問

倒木による停電を防いで 安心安全な町づくりを!!

答

町長 危険箇所については重要なことと認識しています



新津 孝徳 議員

問 最近の異常気象が原因と思われる災害は、全国的に規模が大きく被害も甚大であります。西日本豪雨や北海道の台風が続いての地震災害は顕著であります。これほど災害が続きますと復旧には時間がかかり、被災者は大変な思いを強いられています。近年では宿渡地籍で倒木による停電があり数時間にわたりました。文化生活となった現在、電気がない時間の不便さは想像のできる場所だと思えます。牧場等もあり仕事も止ってしまいます。特に過疎地においては、人口の流出も多く林の

手入れもできず景観も悪く、道路の草刈くらいでは対応しきれないところがあります。昨年、親沢川平間で道路脇の幅広い除伐をしていただきました。景観的にもすっきりし、心が晴々する思いであります。昨年10月の台風でも多くの倒木があり大変でした。防災の考えから質問します。倒木による停電を防ぐため又、景観上からも町道沿いの幅広い除伐をしたらどうでしょうか。

町長 全てをやるということは費用的、事業的に不可能であると思いますが、場所的に

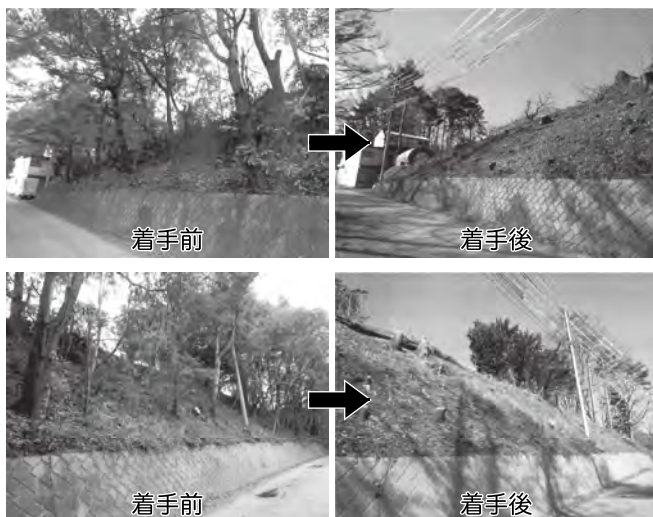
問 町づくりアン

問 毎年短くても出来るところから取組んでほしいと思います。中部電力も供給側として災害の復旧には真摯に取組んでいる。中部電力とも災害時の協定を結んでいるとのこと。町としても町民のためにできるだけの努力をしていただきたいと思えます。電柱の建立地には地主が他出したり連絡の繋がらない等、問題も多い。そこで森林税の使い方において県と相談していただきたい。

町長 安全、安心、健康福祉医療、子育て等、暮らしに直結している問題は引き続き充実させてまいります。中部横断道の延伸もあり、チャンスはあると考えています。働く場所の確保も人口減に大変影響しています。大変重要なことと認識しております。

優先度の高いエリアを設定し、過去のデータ等々を含めた中で検討し、部分的な適用となりますが、大変重要な事と認識しております。

ケート調査があつたが、結果をどう活かしていくのか。



停電災害を防ぐため伐採した現場

町議会行政視察レポート

行政に頼らない、活動資金は自前で稼ぎボーナスまで支給。
だから移住者が相次ぎ、子供人口が増加…こんなすごい集落があるのです。

視察場所 鹿児島県鹿屋市
視察日 平成30年10月16日

渡辺 均

今回の視察は、鹿児島県鹿屋市の柳谷集落（やねだん）です。柳谷の人口は23年前は300人で新生児はゼロ。現在は250余名で減ってはいるが、若者の移住者が増え、5才以下が15人、小学生以下が27名、出生率2・5人、高齢化率も33%に改善し、若返っています。さて、皆さんの集落に、今、何名の子供が居ますか。

自主財源の捻出で町会費を廃止

この活動を推進した方が豊重哲郎区長です。活気ある集落を作るには財源が必要だが、行政頼りでは補助が終わると活動が終わってしまうと考え、自主財源の確保に取り組みます。休耕地でサツマイモを協働栽培、やねだんブランドの焼酎を作る。土着菌を活かした堆肥作りや、粉末トウガラシを韓国に輸出など。地域のブランド化で情報発信と付加価値化で稼ぎを増やし、町内会費の徴収を廃止します。

収益は地域福祉へ

収益は地域福祉に振り分けられます。非常時の緊急警報装置の整備（20カ所×5万円）、腰掛け併用の手押し車の配備（2・8万円×30機）、高齢者の体力増強運動と器具の開発で、市の高齢者の平均医療費の6割程度の負担で済ませているのです。それでも余ったお金は住民にボーナスとして還元します。

移住者と空き家活用

空き家を再生し移住者に提供、現在9号館まで整備。移住者の生活の糧を得る手立てとして大型プリンターや撮影用ステージを用意、生業を支えるために便宜を図っています。小海の空き家対策とどこが違うのか。

地域リーダー育成塾の事業化

集落再生の実績を活かし、合宿形式の地域リーダー育成塾を開き、12年間で1千名以上の卒業生を排

出。交流・文化事業で収益も確保。

地産地葬（これは私が作った新語です）の集落葬

高齢者が多いので、村で葬儀を実施。公民館を葬儀場に改築、費用の節約と集落内還流を図る。

◎活動の根本は利他が先で次に利自。利他が感動&感謝を呼び事業を推進させる。

さて、この豊重区長の取り組みや考え方を皆さんはどのようにお感じですか、一緒に考えてみませんか。



集落の活動を説明する豊重区長

熊本県上天草市の移住・定住・空家対策を視察して

視察場所 熊本県上天草市
視察日 平成30年10月18日

井上 一郎

1 上天草市の概要

平成16年4町が合併し、上天草市ができた。当時の人口は35,000人。現在は27,500人に減少し、歯止めがかかっていない。産業は漁業と農業が少々。魚種は多いが漁獲は少ない。養殖に移行しているが、海水温の上昇で被害も出る。今は観光に注力中。来年は新たに観光拠点を整備し、天草四郎や天草大王（地鶏）、海鮮井、山の井を組み合わせることを考えている。

2 移住・定住促進策

新規就農者に農業機器購入費用を20万円まで補助。就農を認める規模は40アール。家屋と農地を一体として確保し、それを農業委員会が認めるかたちで進めている。認定農家には電柵設置の支援等を行っている。

移住者の起業も支援。飲食業系が比較的目立つ。保育料は減免。待機児童はゼロ。医療費は中学まで無料。以上につき、いずれも住民票の確保が必要。

3 空き家の実態と対策

現在1,500軒ほどの空き家があるが、利用可能なのは300軒程度。家屋の状況と利用者の希望とが合わないケースが多く、当事者に直接話を聴く必要がある。そこで移住アドバイザーを配置してきめ細かな情報を提供し、オーダーメイドな取組みをする。起業支援などにより「別荘的な利用から定住へ」の道筋を用意。

4 問題点や課題

近くの熊本市に吸引されている。地元の個性化に向け、医療に力を入れ、健診など充実させてはいる。移住者の受入れには好意的で軋轢は生じていないが、地元の言葉が荒いので誤解を生みやすい。九州一円からの移住相談があるが、仕事がないと難しい面もあるので、ハローワークとの連携が必要。

5 所感

移住相談アドバイザーの存在が受入れに大きな役割を果たしていた。本人も移住者で移住の決断に至るまでの悩み事に対して、体験

談を交えた適切なアドバイスが可能となっていた。企業政策課に移住相談アドバイザー係が明示されており、そこにも受入れに対する積極性が窺われた。小海町でもこのような担当者の育成と配置が必要と感じた。



移住定住対策の説明をする上天草市職員の皆様

総務産業常任委員会からの要望

●最低制限価格の設定に関しては、関連市町村の動向を調査されたい。

○町長

要望につきましては調査し、機会を見てご報告いたします。

予算決算常任委員会からの要望

●憩う町こうみの関係については、2月にシンポジウムを開くという事なので、良くまとめて報告してもらおうことと、町民に対しても分かり易く説明できるように要望する。

○町長

現在、ベースとなるプログラムの内容もほぼ決まり、セラピストの育成と平行し、企業へのセールスや体験ツアーの実施などを精力的にやっております。参加企業との協定締結も、年度内に複数件見込める状況です。更なる参加企業の獲得をめざして、阿部知事、C Wニコル氏、全国健康保険協会・安藤理事長のご協力を得て、2月15日に東京でシンポジウムを開催する運びとなりました。この事業の有効性、将来性についてご理解を深めていただければと思います。

民生文教常任委員会からの要望

●現状の公共交通手段の課題を踏まえて、交通体系の見直しを行うため、新たな組織で議論を深め、前向きに検討されたい。

○町長

現在、町の公共交通の柱である町営路線バスの諸課題を解消するため、交通弱者・買い物難民対策も視野に入れて、利便性の向上、車両の小型化など、新たな審議会を立ち上げた中で、交通体系の見直しを推進してまいります。

●介護現場での慢性的な人手不足の解消に向けて、町としても介護職の確保について一層の努力をされたい。

○町長

町内の介護施設における人材の確保は、高齢者や障害者の福祉の根幹を揺るがす全国的にも喫緊の問題となつていきます。

奨学金制度の拡充や佐久大学信州短期大学部への働きかけ等、引き続き介護職の確保に向けて、安全・安心の介護の実現を図ってまいります。



編集後記

平成30年第4回定例会が12月19日閉会しました。今定例会において町側から平成31年度長期振興計画のローリングや規則改正等が示され、このローリングや規則改正等には黒澤町長が公約した事業計画が盛り込まれていました。黒澤町政になり初めての本格予算です。その予算が31年度予算として3月に提出されます。「平成」という元号を使う予算はこれが最後の予算となります。私自身も「昭和」「平成」と経験し、今度三つ目の元号を迎えることに年月の重さや感情が込み上がってきます。

新聞の投稿欄に載っていたのですが、今無くしてほしい言葉として「障害者」「義父母・義兄」「後期高齢者」とありました。そのように感じている皆さんも多いことと思います。行政においても何らかの手立てを考えてほしいものです。長野県下のある市長さんが「75歳以上を高齢者と呼びましょう」と呼びかけています。まだまだ元気に現役を続けている65歳以上の方が沢山います。人生「一生涯現役」目指して頑張りましょう。

(編集委員) 井出 幸実
編集責任者 有坂 辰六
編集委員 的埜美香子
編集委員 鷹野弥洲年
編集委員 篠原 義従
編集委員 井出 幸実